

一般社団法人 愛媛県歯科技工士会
厚生労働省後援 歯科技工士生涯研修
〈基本研修課程 5 単位〉

会 場：アイテムえひめ (3F多目的ルーム)
愛媛県松山市大可賀 2-1-28
日 時：平成28年10月2日(日)

タイムスケジュール

9:30	受付開始 (開場)
10:00	開会
10:00~10:10	開会式
10:15~11:15	講演Ⅰ 原田政彦 先生 (日技認定講師)
11:25~12:25	講演Ⅱ 原田政彦 先生 (日技認定講師)
12:25~13:20	昼食 (休憩)
13:20~14:20	講演Ⅲ 磯野啓一郎 先生 (日技認定講師)
14:30~14:44	口演Ⅰ 清水裕次 先生 (学会認定士)
14:46~15:00	口演Ⅱ 鴨居浩平 先生 (学会認定士)
10:00~15:00	ポスター掲示
15:00	閉会

プログラム

1. 講演Ⅰ 『インプラント上部構造の製作におけるポイント』
2. 講演Ⅱ 『各 CAD/CAM 材料の特徴とその考察』
3. 講演Ⅲ 『歯科技工室の集じんシステムを考える』
4. 口演Ⅰ 『職場体験の効果を検討する - 中高生の医療技術職に対する関心度 - 』
5. 口演Ⅱ 『4重構造となったインプラント上部構造のケースレポート』
6. ポスター① 『浮き上がりを低減させる上顎金属床総義歯の重合方法』
7. ポスター② 『シェードテイキング時における歯科医師と歯科技工士間の情報共有の必要性』
8. ポスター③ 『イットリア系ジルコニアクラウンの適合精度について』
9. ポスター④ 『ニケイ酸リチウムの色調および強度に及ぼす焼成温度の影響』
10. ポスター⑤ 『樹脂の外因性口臭の検証』
11. ポスター⑥ 『エアブラスト機 CAD/CAM 冠研磨への導入』
12. ポスター⑦ 『3D プリンター製石膏モデルにおける補強用含浸材を用いた機械的物性向上の比較』
13. ポスター⑧ 『職場体験の効果を検討する - 中高生の医療技術職に対する関心度 - 』
14. ポスター⑨ 『ジルコニア強化型ケイ酸リチウムの色調および強度に及ぼす
— 焼成温度の影響 第2報 A系列の場合』

講演Ⅰ.

『インプラント上部構造の製作におけるポイント』

<略歴>

1993年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 専攻科卒業
2008年3月 京セラメディカル株式会社
(旧日本メディカルマテリアル株式会社) 入社
現在に至る

大阪府歯科技工士会所属
京セラメディカル株式会社 マーケティング部
日本歯科技工士会生涯研修認定講師(歯冠修復)



原田 政彦

オッセオインテグレーションの概念が提唱されて以後、各社様々な表面処理やフィクスチャーデザインが開発され、治療技術に関しても、骨形成術等により適切な骨形成が可能となり、多くの症例で補綴主導型の術式が採用されている。

そして、インプラント上部構造に対する考え方も変化し、機能性と審美性の回復し、永続性を与えることが、上部構造の大きな役割であるといえる。

特に、ラボサイトにおいては、技術面はもちろんであるが適切な診査、診断を行い、術式、デザインを決定することが必要となる。

上部構造の永続性のためには、生物学的な要因と形態学的な要因を十分に理解し、アプローチすることになる。

今回は、上部構造の永続性のために必要な要因ならびにガイドラインを解説し演者の考えを述べたい。また、インプラント補綴術式についても、ステント、印象、補綴術式のステップ毎に紹介し、CAD/CAM システムとの連携についても触れてみたいと考えている。

講演Ⅱ.

『各 CAD/CAM 材料の特徴とその考察』

原田 政彦

近年の歯科分野において、CAD/CAM 技術は多くの症例に応用されている。

今まで CAD/CAM 技術は、オールセラミックスやインプラント等自費治療を中心に使用されてきたが、2014年にCAD/CAM 冠が保険収載され、保険治療にもCAD/CAM 技術が応用される時代になってきた。

そのような状況な中で、CAD/CAM システムで加工される材料は多種多様に渡っている。

これら材料を上手く使用するためには、各材料の特徴を理解し、適切な条件で使用することが必要である。

例えば、ジルコニア等は加工物のデザインはもちろんであるが、焼成スケジュール等十分に理解した上で使用することが必要である。

本件研修会では、特にジルコニア、チタン、コバルトクロム合金、ハイブリットレジンブロックを中心にそれら材料の特徴について整理し、臨床に使用するためのポイント等について解説したいと考えている。

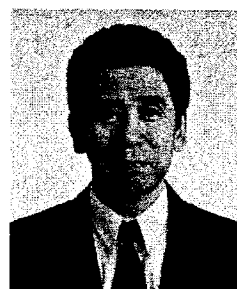
本研修会が先生方の日常臨床の参考になれば幸いです。

講演Ⅲ.

『歯科技工室の集じんシステムを考える』

<略歴>

昭和 19 年 12 月 21 日生 愛媛県松山市出身
昭和 53 年 3 月 愛媛県立公衆衛生専門学校卒業
昭和 53 年 4 月 大谷歯科矯正歯科勤務
昭和 59 年 9 月 愛媛県歯科技工士会理事(学術担当)
昭和 60 年 4 月 愛媛県立公衆衛生専門学校非常勤講師
(現・愛媛県立歯科技術専門学校)
平成 6 年 9 月 イソ・デンタルワーク設立
平成 6 年 12 月 日本矯正技工研究会入会
平成 12 年 4 月 (社)愛媛県歯科技工士会 副会長 就任
平成 15 年 4 月 (社)愛媛県歯科技工士会 会長 就任
平成 17 年 4 月 (社)愛媛県歯科技工士会 顧問 就任
現在に至る



磯野 啓一郎

- 1、風量・風圧・風速の関係を知る
- 2、集じんシステムの要素を考える
 - ① 吸じん口(マウス・フード・ボックス)
 - ② 配管(口径・曲がり・長さ)
 - ③ フィルター(ネット・サイクロン・フィルター)
 - ④ 吸引ファン
- 3、実践例

集塵は、我々の健康を守るために不可欠のものである。粉塵は、職場環境を汚すものであり、また、排出する事により近隣の環境をも汚染する事になる。

集塵装置は、歯科技工士にとって最も重要な設備である。有効な集塵装置を備えないで、歯科技工の業務を続けることは、危険な事であり、知らず知らずのうちに呼吸機能に影響を受けている可能性がある。しかし、これまで歯科技工士養成カリキュラムにおいても、特段の教育時間をもうけてこなかったのが実情であり、大変問題であると感じていた。

平成17年3月、厚生労働省通知により「歯科技工所の構造設備基準及び歯科技工所における歯科補綴物等の作成等及び品質管理指針について」が発せられた。これを良い機会としてとらえ、「歯科技工所の構造設備基準」のなかで、集塵を中心としたことがらを、県内いくつかの歯科技工室の実態調査をふまえて、考えてみたいと思う。

<おもな研究・発表>

『集塵装置のあり方とダスト分離装置について』	QDT	14 (6)	1989.
『健康技工室を作ろう (1), (2)』	日本歯技	(5), (6)	1998.
『集塵と換気の基礎意識』	初任者研修(生涯研修)		1999.
『自家製ソルダーリングスタンドによるろう着』	初任者研修(生涯研修)		2000.
『歯科技工室の集塵システムについて』	生涯研修(基本研修)		2003.
『平行模型製作用フォーマーの試作』	日本矯正技工研究会		2004.